



平林金属株式会社様に対する

『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス』第3回モニタリングの実施について

百十四銀行（頭取 森 匡史）は、2023年6月30日（金）に実行した大元支店取引先 平林金属株式会社（岡山県岡山市北区下中野 代表取締役 平林 実）向け『114 ポジティブ・インパクト・ファイナンス^{（※1）}』に対し、3回目のモニタリングを実施しましたのでお知らせします。

ポジティブ・インパクト・ファイナンスにおけるモニタリングでは、融資実行時に発行したポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書に掲げる、お客さまのマテリアリティ（重要課題）を解決するための取組方針と、その達成度合いを測定する KPI（重要目標達成指標）に対し、進捗状況の確認と、KPI 達成に向けた各種支援を実施します。本件モニタリングを通じて、お客さまのサステナブル経営を一層推進します。

当行は、今後も地域金融機関として、お客さまの SDGs や ESG への取組みを支援してまいります。

（※1）お客さまの企業活動が経済・社会・環境にもたらすインパクトを包括的に評価し、ポジティブインパクトの拡大とネガティブインパクトの緩和に向けた取組みを支援する融資。当行のポジティブ・インパクト・ファイナンス実施体制については、株式会社格付投資情報センターより、国連環境計画・金融イニシアティブ『UNEP FI』が制定したポジティブ・インパクト・ファイナンス原則に適合している旨のセカンドオピニオンを取得している。

記

■企業の概要

会 社 名 平林金属株式会社
所 在 地 岡山県岡山市北区下中野 347 番地 104
業 種 総合リサイクル業

【サステナブルな取組み】

当社は、『資源の有効活用』が、自社に課せられた最大の使命と認識し、主業である金属の再資源化をはじめ、さまざまな資源リサイクルを推進しています。『MOTTAINAI、ARIGATAI』をキャッチフレーズに、中四国唯一の家電リサイクルプラントにおける家電の再商品化や全国初の有人型資源集積システム「エコ便」の展開等を通じ、不法投棄・違法回収の低減と循環可能型社会の形成に向けた取組みを行ってまいります。

※平林金属株式会社の「ポジティブ・インパクト・ファイナンス第3回モニタリング報告書」については、別紙をご参照ください。

以 上

平林金属株式会社

ポジティブインパクトファイナンス

第3回モニタリング報告書



2026年9月10日

目次

1. 平林金属株式会社の企業概要.....	1
2. 目標達成に向けた進捗状況	2
3. 総評.....	3

1. 平林金属株式会社の企業概要

企業名	平林金属株式会社
創業	昭和31年10月
設立	昭和35年7月16日
代表者名	代表取締役社長 平林 実
資本金	9,980万円
従業員	422人（令和7年12月末）
売上高	207億円（令和7年12月期）
事業拠点 （山陽地域の 主な拠点）	本社（岡山県岡山市北区下中野347-104） 岡山工場（岡山県岡山市北区下中野406-1） 岡山東営業所（岡山県岡山市東区寺山33-1） 港工場（岡山県岡山市中区新築港1-22） 水島工場（岡山県倉敷市水島西通1-1920） 山陰工場（鳥取県米子市旗ヶ崎2315） リサイクルファーム御津（岡山県岡山市北区御津高津120-13） 西大寺工場（岡山県岡山市東区西大寺新地108-5） 玉島物流センター（岡山県倉敷市玉島乙島字新湊8259-5）
事業内容	鉄・非鉄金属及び使用済み家電・自動車のリサイクル事業 ＜グループ企業＞ 株式会社ヒラキン ヒラキンテック株式会社 ヒラキン興産株式会社 株式会社ヒラキンブライト 葉豆瑠農園株式会社（瀬戸内市前島地区での農業事業） たからさがし株式会社（就労継続支援A型事業所）

2. 目標達成に向けた進捗状況

項目	内容
インパクト	カーボンニュートラルの達成とサーキュラーエコノミーの実現
対応方針	・加工・選別技術を他社へも提供し、プラスチックやガラスのリサイクル技術を底上げする ・カーボンニュートラル素材である再生鉄鋼材料の流通を促進する ・他業種と連携し太陽光パネル再生材料の用途開発を実現する
KPI	2030年までに硬質プラスチック回収量年330トンを目指す 2040年までに他業種と連携し太陽光パネル再生材料の用途開発を実現する
KPI進捗状況	硬質プラスチック回収量は71.098tとなり前年を上回る実績となった。これまで人手による選別を行っていた選別工程に風力選別ラインを導入し、本格稼働を開始したことで自動化・省人化が進展している。 太陽光パネルリサイクルについては、ガラスメーカー各社との共同検討を継続しており、板ガラスや繊維ガラス等への活用可能性について実証試験を進めている。

項目	内容
インパクト	食の流通事業・農業(作物栽培)・福祉事業の深化
対応方針	・残留農薬ゼロ野菜を自社プラットフォームを活用して販売していく ・農業を専門とする人材を雇用する ・就労継続支援A型事業所への仕事創出と人手不足へのマッチングを行う
KPI	2030年までにたからさがし株式会社からの一般就労移行を7人目指す
KPI進捗状況	一般就労移行者数は累計3名となり、目標達成に向け順調に進捗している。利用者一人ひとりの適性や希望に応じた就労支援を継続するとともに、ハローワーク等の関係機関との連携を継続し、就労機会の拡大や定着支援にも取り組んでいる。今後も利用者の自立支援を推進し、一般就労への移行促進を通じて地域社会への貢献を目指す。

項目	内容
インパクト	国内外の貧困問題へのアプローチ
対応方針	国内NPO法人と協力をして、コーヒーの栽培に従事するネパールの農家へ栽培方法の指導と販売ルートの確立に取り組む
KPI	2030年までにコーヒー豆年間流通量4,500kgを目指す
KPI進捗状況	年間流通量は3,090kgとなり、前年実績を下回る結果となった。これは前年まで実施していたコモディティクラスの豆約1,500kgの買付を見直し、その経営資源をネパール国内市場の育成へ振り向けたことによるもの。現地で焙煎・販売を行うことで付加価値を創出し、現地雇用の拡大や市場の育成につなげる取組みを推進。

項目	内容
インパクト	生涯スポーツであるソフトボールのさらなる発展と障がい者アスリートへの支援
対応方針	・障がい者アスリート（走り高跳び、軟式野球）の応援 ・男女ソフトボール・軟式野球選手の応援 （ソフトボール・軟式野球チームの運営、選手の雇用） ・スポーツ推進課の活動継続 （ライズカップ、プロスポーツ教室、地域のソフトボール教室への協力）
KPI	・ソフトボール、軟式野球チームの強化と選手の雇用促進 ・スポーツ教室の開催継続と地域との連携強化
KPI進捗状況	ソフトボール選手が複数名引退したが、現場作業員・営業社員として3名継続雇用。男女ソフトボールチームに新メンバーが4名加入し戦力をさらに高め、地域を代表するプロスポーツチームとして好成績を狙っていく。競技活動と就労の両立を支援する体制を維持。

項目	内容
インパクト	女性社員の活躍機会拡大
対応方針	・機械化等により、性差やフィジカルに囚われないリサイクル業務を推進する ・業務内容の見直しや新規事業の体制強化を行い、柔軟な勤務体制・内容を創出する
KPI	2030年までに「現場女子」を3人にする（女子ソフトボール選手を除く）
KPI進捗状況	5名の女性社員が現場作業に従事しており、目標を上回る水準を維持している。現場で働く女性社員の意見を反映した作業服を導入し、安全性、作業効率の向上、モチベーションアップ、採用力強化の効果が見込まれる。

3. 総評

各KPIは概ね計画通り進捗しており、早期達成済みの目標もあることから、インパクトへの取組みは全体的に活発である。特に硬質プラスチックの回収については、これまで人手に依存していたシュレッダーダスト選別工程に風力選別ラインを導入し、本格稼働を開始したことで選別工程の自動化・省人化が大きく進展した。風力を利用して比重の異なる素材を効率的に分離することで、従来よりも高い精度でプラスチックを回収できる体制が構築され、設備レイアウトや作業工程の見直しと相まって回収効率の向上につながっている。今後も選別精度や処理能力のさらなる向上が期待され資源循環の高度化とサーキュラーエコノミーの実現に向けた重要な基盤整備が進められている。

太陽光パネルについてはガラスメーカーとの共同検討を継続し、ガラス資源の新たな用途開発に向けた実証試験や技術検証を進めるなど、循環型社会の実現に向けた取組みが進展している。

コーヒー事業については、前年まで実施していたコモディティクラスの豆の買付を見直し、その経営資源をネパール国内市場の育成に振り向けている。現地での焙煎・販売による付加価値の創出や雇用機会の拡大を推進するなど、流通量の拡大だけでなく、地域経済の持続的な発展を重視した取組みへ発展している。

また、就労継続支援事業における一般就労への移行支援や、女性社員の活躍推進、スポーツ選手の雇用継続など多様な人材が活躍できる職場環境づくりについても着実に成果が表れている。

百十四銀行も、コーヒー豆や再生後の太陽光パネルのビジネスマッチングを通じた販路開拓支援、人事評価制度策定支援や広告媒体の紹介を行い、当社のマテリアリティへの取組みを引続き後押しし、持続可能な社会の実現と企業価値のさらなる向上に向けて伴走支援を行っていく。